

# 六条大麦の麦わらを活用したストロー制作

JA兵庫南（加古川市）



(左) 完成した大麦ストロー  
(右) 包装された商品

## 経緯

- ・JA兵庫南は、令和元年にアグリ支援課を立ち上げ「農福連携プロジェクト」として、トマトの下葉のカット、ハウスや露地の軟弱野菜の後片付けなど、障害者への委託を進めていた。
- ・JA兵庫南管内は、西日本でも有数の六条大麦の産地であることから、令和3年度に、大麦を収穫したあとに残った麦わらを活用したストローの商品化をめざした。
- ・天然素材のストローは、プラスチックゴミの削減につながることから、環境にやさしい商品でもある一方、製造過程では手作業を多く要することから、これまで取り組んでいた農福連携プロジェクトでお世話になっている福祉事業所と連携して取り組むことになった。

## 取組内容

- ・収穫時期が遅くなると茎の中に青葉ができて、そこに水がたまり節目などに黒く着色することから商品にならないので収穫のタイミングが大事。
- ・今年は7,000本製造し、稲美町にあるJA兵庫南の直売所である「にじいろふぁーみん」で販売。

## 今後の展望等

- ・障害者の工賃確保・拡大のため大麦ストローを商品化し、全国に販売展開を行う。
- ・商品化に成功した大麦を使用したフィンランドの伝統工芸品「ヒンメリ」セットを活用し大麦ストローの認知度を高め、大麦ストローの消費拡大を図る。

2021年12月23日調査